

### 樽前山

#### ○地磁気全磁力

第120回・121回資料で、山頂火口原内に明瞭な帯磁傾向が検出されたことを報告した。その後、2011年10月に磁気測量を行い、1年間の変化図を作成した(図1)。また、主要な2地点について時系列グラフを示した(図2)。観測された変化パターンは磁気双極子でよく近似され、溶岩ドーム直下の約500~600m深を中心とした帯磁傾向が続いていることが伺える。この帯磁傾向は、2009年頃から続いている溶岩ドーム付近各火口の噴気量増加や高温化に対応している可能性がある。2010年10月と2011年10月の測量は北海道大学と気象台の共同で、2011年5月と7月の測量は北海道大学により実施した。なお、日変化除去のための単純差処理の参照点は図1の00地点である。2011年5月と7月の測量では、参照点の観測を行わなかったため、図2に表示されているのは、国土地理院の赤井川観測点を参照点として接続した参考値である。

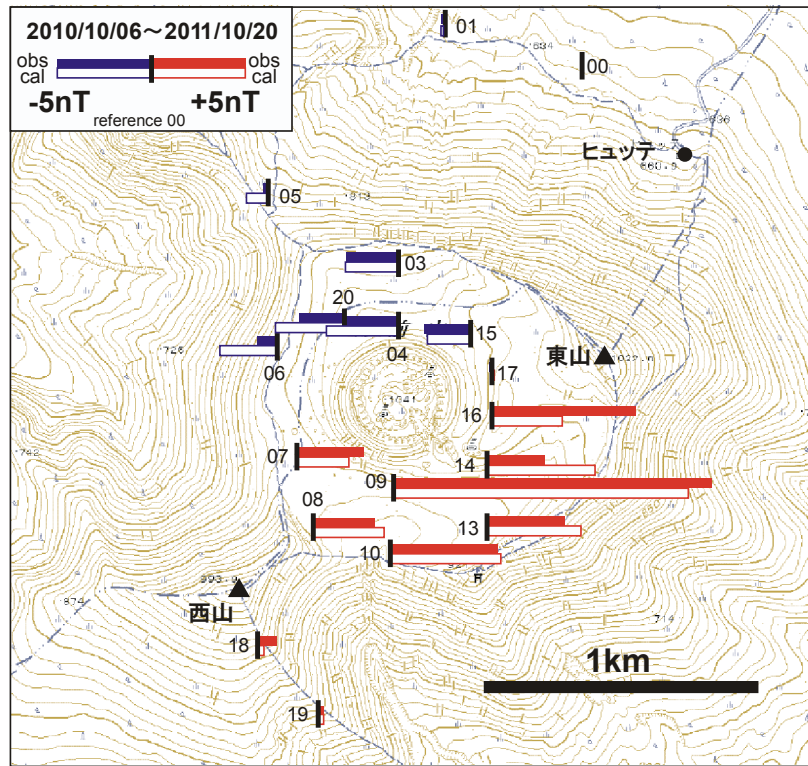


図1. 2010年10月~2011年10月の全磁力変化

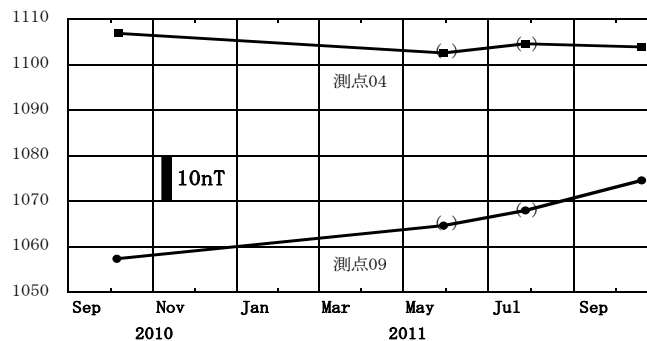


図2. 測点04と09の全磁力変化時系列(参照点は00地点)

(橋本・鈴木)